

# 『ひとよ一夜に18片』

樋口美友喜

登場人物

時野

日世子

忍

源（右の門）

劍守（護衛）

神田（巫女）

鈴鹿（鈴ならし）

刃（左の門）

花嫁

OPENING

ナイフとフォークが食べ物を切り裂く音。  
食べ物を通過して、カツンと皿に当たって音を立てた。  
横一列の長い食卓、真っ白なテーブルクロスの上には何種類もの料理。  
人々は獣のように味わう事すらせずに口に詰め込んでいる。  
そして、真ん中の少年が顔を上げた。

少年 だから予告したでしょう？

そう言って胸のナプキンを投げ捨てた。  
人々の間から聞こえて来る。

人々 「きつと文字だ」

少年 誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を示す文字。

人々 「きつとパズルだ」

少年 誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を表わすパズル。

人々 「きつと地図だ」

少年 誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>を探す地図。

人々 「きつと扉だ」

少年 誰かが言った。それは根<sup>ルート</sup>へ通じる扉。

人々 「きつと動き出すロボットだ」

少年 誰かが言った。それは……。ジャガイモ、ニンジン、  
野菜の根。

少年 牛肉、魚、卵、

人々 動物の根、言葉の根、ウワサの根、親のスネ。

少年 いろんな根つこにかじりたくなって、

人々 息の根。

少年 足首を掴まれ、手首を掴まれ、僕は根をたちきる為に動き出したんです。  
人々 それはたった一夜のうちに現れた。

テーブルクロスを四方を掴んで背中に抱える者。

テーブルを移動させる者。

口の汚れを拭って退場する者。

様々に席を立つ。

テーブルを片付けるもの達は工事現場を片付けるように見える。

立ち入り禁止のオレンジ色の光がひとつひとつ灯っていく。

その光をめぐらして時野が走ってくるようだ。

1

時野 駅の改札を北口から出て真っ直ぐ。一つ目の交差点を左に曲って、三つ目の信号をまた左。右手には女子 短大の校舎それを右にぐるんと回った裏側に…あれ？

立ち止まり息を整えようとするがうまくいかない。

いつもより視界の良い風景が見えた。

ここではないどこかで日世子は自分の部屋の中。

日世子 声は体温を思い出させます。

時野 ぐるんと回った裏側に、いつもあったじゃないか？ 何で無くなるんだよ？ 何処に行ったんだ？

日世子 足音は肉体の存在を知らせます。息づかいが甘い匂い…だから…

時野 すいません。誰か知りませんか？ ここにあったんですよ、あいつの家が。ベージュ色の二階建て。

片づけをしている作業員が、オレンジ色の光を指差した。

時野 …工事中？ あの、誰か知りませんか？ 何処に行ったのか。

作業員は小首を傾げ、手を振り、知らない、と示す。

日世子 だから、私をここから出そうとしないで下さい。

時野 こっちにあいつの部屋があって、何やったってびくともしないドアがあって…大声張り上げてた。おい日世子、聞いているか？って。お前いつまで休む気？ もう夏休みなんかとつくに終わってるよ。とりあえず中間テストの時間割おいていくからな。みんなに

頼まれたから。一応ちゃんと届けたからな、って、けっこう覚えてるもんだな。

日世子 どうしても移動したいのならこの部屋ごと移動することを考えて下さい。

時野 日世子、何で今日の進路相談、来なかったんだよ。お前さすがにやばいって。日世子、あつ、あいつ鍵かけてやがる。

日世子 でもこれで、きっともう会えなくなる。もともと会う気もなかったけど…

時野 俺よく考えたんだけど、これってもしかして登校拒否？ 何で？ 拒否する理由なんか無いだろ？ みんなはきっと理由があるんだろうからそつとしとけて言うけど。

日世子 時野が一人だけ、最後までしつこかったから。

時野 お前、今日こそはドアこじ開けてでも入ってやるからな。何で高校やめたんだよ。どうすんの？ これから。俺、もう大学決まっちゃったぞ。

日世子 いつも大声出して、きつと細い目をいっばいに見開いてたんだろうな。

時野 みんな心配して卒業してったよ。電話も出ないし。心配してくれる奴がいるうちがハナだよ。何か嫌になったわけ？ 一回くらい何か答えろって。日世子…お前いい加減にしろ。一生その部屋の中だけで生活していく気か！？ 日世子！ もう勝手にしろ。俺二度と来ないからな。

日世子 すぐ怒るし、すぐ謝るし。

時野 この間はちょっとキレました。ごめんなさい。ハガキなら読むかなと思って出しました。

日世子 私が、時野のこと好きにでもなれば変わったかな。

時野 大学よりバイトの方が楽しいです。最近、高校のあいつらとは時間が無いのであまり会いません。

日世子 そしたら外に出られたかも？

時野 就職活動、厳しーです。ムカツク面接官もいます。

日世子 でも、出ない。私この部屋から絶対に出ない。

時野 何とか就職できましたが、やっぱり残業が多い。でも大学の時よりあいつらとよく会います。

日世子 時野がいたって私は何にも変わらなかったんだから。変わらずに、やっぱり息づかいは甘い匂い。

時野 まだあの部屋の中ですか？そうだとしたらちょっと長すぎやしませんか？俺と交代する？

日世子 でも、これでもう時野の気配も感じなくてすむ。時間がかかったけど完全に私の計画成功…あつ。

日世子、誰かに足を掴まれた。

それは根っこのようにも見えた。

時野 俺も閉じこもってみようかな、なんてな。

日世子 …何、これ？

時野 最近、高校のあいつらとよく会います。うれしいけどうらやましいこともある。

日世子 やだ…何なの？これ…何でこんなの、これ、これは…

時野 何か疲れてるみたいです。元気出せるようにしたいから、

日世子 これが私が怯えていたものなの？

時野 ちよつと行ってきます。

日世子 これは私の足を掴む、根っこ？

時野、ふと我に返った。

時野　ちよっとの間にこれかよ。帰って来ようって思えたのに。向こう側の景色なんて見えやしなかったのにな。スカスカの骨組みの隙間から遠くまで見えてる。何処に行ったんだ？また明日も来ようか？明日会えなかったら次の日も、その次の日も…。嘘じゃない、本当に聞きたかったんだ。あいつの声が一番聞きたかった。行列の最後にひとつひとつ灯っていく灯りを見て、やっぱりそう思ったんだ。

時野はオレンジ色の光に背を向けて歩き出した。

2

工事現場の作業員から短大の授業へ。

地面に耳をあてる者。

突っ立っている者。

みんなドカタのような格好。

源　右に50.04、そのまま下へ25.84、左に曲がって16.99……

モニターを見ながら地面を這いずり回る源。

剣守、鈴鹿、神田の三人はやる気なさそうに棒で地面を突つくだけ。

剣守　最悪

鈴鹿　何？この格好。

神田　仕方ないよ。

剣守　うわ。買い物のおばちゃん、こっち見た。

鈴鹿　見世物じゃないわよ。

神田　八つ当たりしないの。すいません。

剣守　大体、誰が言い出したんだっけ？この授業取ろうって。はっきりさせようよこの際。

鈴鹿　神田ちゃんでしょ。

神田　ごめんね。…え？

剣守・鈴鹿　何？

神田　私？

剣守・鈴鹿　そうよ。

神田　違うわよ。鈴鹿でしょ？これだったら絶対「優」がもらえるって先輩に教えてもらってたって言ってたじゃない。

鈴鹿　言ったかしら？

神田 え？言わなかったっけ？

劍守 どっちが言い出しっぺでもいいけど、私が一番かわいそうよ。うっかり口車に乗ってこんなモンペ着るはめになって。

鈴鹿 モンペじゃない。

神田 ねえこれ何て言うんだっけ？ねえねえ。

鈴鹿 でももともとの言い出しっぺは劍守が楽しんで何が何でも優の数を増やしたいって言ったから。

劍守 私か！？

鈴鹿 私、もともとそれなりに出来るし、神田なんか努力家でどの授業でもいい線いく。

劍守 いいわよ。じゃ仮に、仮によ、私が言い出しっぺだったとして、それが何？さあ、それが何なの。

鈴鹿 でた。劍守得意の開き直り攻撃。

神田 これ何ていうズボンだっけ？

源 そのまま下がって84526。うーん、これは紆余曲折だねえ。そしてこの位置で少し停滞……。辛い、辛いねえ。だけどね……。ほら脱出した！素晴らしい。

劍守 集合。今は開き直るのやめるから集合。

神田 ごめん。素直に言っただけ？

劍守・鈴鹿 何？

神田 あの先生怖い。

劍守 神田ちゃんよく言った。

鈴鹿 うん。たまに核心付くね。

源 鈴鹿君、神田君、劍守君。

三人 はい。

源 進んでる？

三人 はい。

源 神田君は誰の根を探してるんだった？

神田 私？えーとですね、あのね……あはは。

鈴鹿 先生、今日は後期の授業の一回目だから何をするのか説明してもらわないと、私達こんな格好させられて突っ立ってるだけなんです。

源 あ、そう、そうね、そうだったね。初めてだもんね。えっと、僕の事見てて大体分かんないかな？

神田 それはちよつと難しいですよ。

源 だろうね。

劍守 さっぱり分かんない。

源 だろうね。

鈴鹿 源先生、ちゃんとやり方教えていただけないでしょうか。

源 実は僕にもよく分からない。

全員 あっはっはー。

劍守 タイム。作戦変更。

神田 この短大、大丈夫なの？

劍守 もうこの授業さぼろう。

鈴鹿 私達三人しか選択してないんだからさぼったらバレバレ。

劍守 でも教えてる本人がよく分からないって言うてるのよ。そんな授業受けてどうするの？

神田 劍守、声が大きいってば。

劍守 しょうがないでしょ、根が正直なのよ。隠してられないの。学生課に抗議に行ってくる。

源 僕はまだまだ「根学」一年生ですから。

三人 は？

源 十年間根学に没頭しているこの僕でもこれからもっと研究していかないと、まだこの分野は不明な点が多いので。だからみんなで根学一年生から二年生三年生と進級しているよね。ありがとう、ありがとうね。がんばっていいよね。がんばるぞ。

劍守 私帰る。

源 「優」が無くなっちゃうね。もったいないね。

劍守 戻ります。

鈴鹿・神田 結局そうなるのなら初めからおとなしくしてなさい。

劍守 分かった。この授業を選択したのが間違いないじゃなくて、この学科に入ったのが間違っていたんだわ。

鈴鹿 現代教養学科？

神田 結局何勉強しているのか分からない学科よね。内容もバラバラだし。

鈴鹿 揃いも揃ってここしか受からなかったんだから仕方無い。

源 根学は実は古い歴史を持つているのか分からないけども、けれども、実際に目立たないマイナーな学問ですから誰も知りません。みなさん、私服で授業を受けるのはやめましょうね。警察に職務質問されますよ。「根学の勉強です」なんて言ったら怪しいと思われるでしょうね。

かれます。工事現場の人々と見せかけて、密かに根を探しましょう。はい、よーいドン。

劍守 ちよっとちよっと、肝心な事説明してないじゃない。

鈴鹿 神田、分かっているのに何してるの？

神田 だって「根」探すんでしょ。花とかあれば。

源 はい、神田君ほぼ正解！但し花じゃありません。探す根は人の根です。

三人 人の根？

源 ぐるぐるどーん。はい注目。いいですか、これはむかし根学を生み出した駒川草次郎さんの著書です。

劍守 聞いた事ある？

鈴鹿・神田 全然。

源 ここに書いてあります。「人の根は生きている」と示されております。はい。

劍守・神田 どういう意味？

鈴鹿 私に聞くな。

源 ぐるぐるどーん。はい、これは音を聞き分ける機械です。よくテレビのオカルト番組で使われます。人の声なのか、車の騒音なのか、動物の鳴き声なのか、このモニターに波長が映し出されます。下の方に出るのが人の声の波長です。

神田 人の声が人の根ってこと。

劍守・鈴鹿 あんたバカじゃない？

源 はい、神田君かなり正解！

三人 はあっ！？

源 しー…：静かに、静かに、ゆっくりゆっくり耳を地面に、しー…：何か聞こえますか？

劍守 なーにも聞こえない…：

源 しーしーしー人の根は見えない地下を張り巡ると書いてあります。そしてその根は人の声とよく似ているとも書いてあります。もしかしたらその声そのものが地下を駆け巡っているのかもしれない。

神田 地面の下から？

劍守 人の声が聞こえて来る？

鈴鹿 まるで地獄ね。

源 自分の耳と機械でその根を探って行くんですね。音のする方へ体を何センチずらしたかメモリながら。すると紙の上に一本の線が出来上がって行きますよね？今探している根がどこから来てどこへ行くのか。何か聞こえますか？

神田 水の音がする。

劍守 水道管の音？

鈴鹿 セミが鳴いてるみたいよ。ジージー。

劍守 電気の音？

神田 どれが人の声か分からない。

源 モニターを見ながら、集中、集中。誰の根をキャッチするか分かりませんからね。僕のものかも知れないし。でも人の根というのはエネルギーをたくさん出している人のをキャッチすることが多いとか書いてあります。

劍守 ！！

鈴鹿 どうしたの？

劍守 人っぽい。何か人っぽい音。

神田 ウソおん。

源 はい集中集中。よく聞いて下さいね。もしかしたら音の破片を集めたら言葉がちやんと聞こえて来るかも知れませんよ。何か聞こえますか？

鈴鹿 ジーギー。

神田 サラサラサラサラア。

劍守 カンカンあーカンカンあー

源 まあでも初心者には難しいので聞こえるわけ無いと思いますが……。

鈴鹿 ジーイーイーイー。

神田 サラサラサラサラアー。

劍守 あー、あっ……

三人の学生の声と交じり合って男の荒い息遣いが聞こえて来る。

時野の声 はあはあはあはあ……。

劍守 ……男？

神田 え？

劍守 男の人の声？

鈴鹿 冗談でしょ？

時野の声 はあはあはあはあ。

必死になって聞く三人。

男の息遣いが近づいて来るようだ。

源 この人の根とは何なのか。科学的には解明されておりませんが、一説には……

源の声はどんどん遠ざかって次第に男の息遣いと言葉が入り込んでくる。

時野の声 おかしいな。もうバス停が見えてきたっていい頃なのに……。

劍守 きやあー

源・鈴鹿・神田 何、え、何、何！

劍守 何か聞こえちゃった。

源・鈴鹿・神田 ウソ。

劍守 ホントホント、マジで。ほら、ちよっと鳥肌立っちゃった。

源 そんな、今さっき初めて僕が教えてあげたくらいで聞こえるわけないでしょ。  
劍守 しーしっ。静かにして。あら？聞こえたのもしかして私だけ？うわ、優秀。  
鈴鹿 私、もう一回やってみる。  
神田 私、私も聞きたい。  
源 そんな簡単に聞こえるなんて、根学バカにすんなよ。  
三人 しーっ

全員しやがみこんで寝そべる。

源 いいですか、人の根とはとっても微妙らしいんです。もしかしたら人の心のメカニ  
ズムの大発見につながるかも……。

鈴鹿 あっ。もしかしてこの低い音？

劍守 うん、たぶん。

神田 誰の息遣い？

源 え？みんな聞こえるの？ウソついちゃいけないよ。

学生三人はずるずると根を探して移動する。

劍守 ちよっと静かにして。こっちから闘こえない？

鈴鹿 神田、メモって。じゃまじやま。(と源を押しかけて)

神田 はい。右に32・45。

源 ちよっと！？ほんとに？真剣？十年間研究し続けてる僕だって本当は一回も聞  
いた事無いのに。

劍守 ごめんなさい。私達、先生の十年間を十分に飛び越えちゃったみたい。

源 ええ！飛び越えられちゃった！？

三人 うるさい。

3

聞。

夏の虫の声、リーリーリーリー。

段々と荒い息遣いが聞こえ出す。

逃げ続け、走る男。

時野 おかしいな。もうバス停が見えてきたっていい頃なのに。あのキャンプ場を抜け  
出してからかなり走ってるのに。はあー、山道で迷ったらヤバイな。一本道だと思ったの  
にな。朝になるまでどこかでじっとしてる方がいいかもな。

りーりーりーりーりーりー

時野 気味悪い。いかにも出てきそうなカンジ。能勢<sup>のせ</sup>ってかなり田舎だつてセミナーの人が言ってたっけ？タヌキが出ますよって。まさかクマとか……出ないよな？

ザアツと風が木々を揺らす。

時野 まさかな。……やっぱり戻ろうかな。いやダメダメダメ。俺にはああいうのは合わなかったんだ。取りあえず夜が明けたら道も分かるだろうし、バスに乗って駅までいっ

声 デンシヤダイ

時野 あれ？

声 シンカンセンダイオサイフオカネカード

時野 そうだった。貴重品、預けたまんまだ。ああ、もういいや。仕方ないし。戻るわけにいかない。それより誰かに電話して迎えに来てもらおう……

声 ケータイ

時野 あ……解約したんだつたっけ？それに……

声 ダレカツテ？

時野 誰もいないんだよな。

声 カエロカエロカエロオウチニ、ナンテネ。

時野 アパート引き払ってここに来た……

声 ドウシヨウヤツパリ戻ロウカナ？

時野 やっぱり戻ろうかな。でも……

声 アンナトコロニアト一週間モイタラ

時野 頭、おかしくなっちゃうよ。

声・時野 あー、どうしよう。一番いい方法考えなきゃ。まずカード止めるだろ。あ！免許証。それに仕事探さなきゃ。部屋、借りる程貯金ナイシ。タイシヨクキンモセミナーガツシユクニホトンドハラツテルシ

どんだん声の方が勝ってきて最後は、

時野、思わず聞いてしまう。

時野 あれ？

声 アレ？

時野 何だ。俺の声か。自分の声が別の人の声みたいに聞こえた……

もう一度辺りを確認。

けれどそこは闇。

時野 ……真っ暗だ。何でこんな事になったんだろう…

声 許容量コエソウダ

時野 ハラ減ってきた…

声 モドツタラ？

時野 うーん。

声 イツモミタイニナンニモカンガエズニトビダシタカラ

時野 せめて貴重品は確保しておくんだったな。

声 サイシュウシヨクツテムズカシイナ

時野 あと一週間我慢したら会社もアパートもついてくるって話だったけど。でも…

声 デモナアデモナアアレハイヤコレモイヤデキナイワカラナイ

時野 どうでもいいや。もう何にもしたくねーよ。考えんのも面倒くさい。

声 イチバンイイホウホウ…

時野 バカか俺。いくらなんでも。

声 ココカラオチタライタイカナ？ ナーンテネ

時野 こっち側、ほんとに真っ暗だ。

声 ヤメトケツテドウセマタトチュウデニゲダスダケ

時野 一瞬だけ怖いの我慢したら。

声 ビビットルクライナラヤメトケツテ

時野 だってどうせ誰もいないし。会社無いし、お金無いし、家も、なんにも、

時野、ゆっくりと、靴をそろえて脱ぐ。

声 ヤメトケツテ戻ロウヨ

声 クツハソロエテヌグノデス

声 ヤメトケツテ朝マデマトウヨ

声 キャンプジョウカバステイカ

時野 どっちも考えたくないよ。

声 ヤマノソトガワガケツプチャマツクラクラヤミノナカアトハ一步ヲフミダスダケ

声・時野 落ちたら終わり。何にも無い。

時野 うわああああ

けれど怖くて逃げ出した。

時野 やっぱり無理だ。どうしよう。どうも出来ないよ。

ひよいと時野の左の靴を“花嫁”が啜えて隠れる。

声 アレ？

時野 靴が無い。左の靴だけ。何で？

声 ヒソヒソクスクスヒソヒソクスクス

時野 へへへ。そっかさっき俺の左側半分だけ、あのマックラヤミの中に落ちて行ったんだ。中途半端だな、何やっても。どれか一個くらいやってのけたいの。どれなら出来る？どれも無理か……。はあふ…疲れた…このまま、もう目が覚めなくてもいいや……

時野はゆっくり目を閉じた。

鈴鹿 あっ、とぎれた。

劍守 見失ったんじゃない？

神田 地面の下だから見えてないのに、見失うって言葉使うのはへんな感じよね。

劍守 こっちの方にそれっぽい音があるんだけど。

鈴鹿 結構おもしろい、これ。古そうにみえて新しいよね。

神田 ああ！！

劍守鈴鹿 何？

神田 キャッチしたかもしれない。こっちの方。

劍守 源先生、こっちです……。

源、うつ伏せになって寝ている。

高らかなイビキ。

鈴鹿 ほっとけば？役に立ちそうに無いし。私達だけでも探そうじゃない。

神田 いくいく。続き、続き探そうよ。

劍守 これ借りて行きます。

神田 ここからもうちよつと左よ。

劍守 左に13・32・

鈴鹿 そのまままっ直ぐ62・00……。

三人、道具を抱えてうつ伏せで這いずり回る。

男が一人声をかけた。

時野 すいません。ちよっとお聞きしたいんですけど。

剣守 ごめんなさい。急いでるもんで。

時野 あの、ちよっと待って。この工事現場の人ですよ？

鈴鹿 だから嫌なのよ。この格好。

時野 前にも何度か聞いたんですけど、みんな知らないって。

神田 すいません。現場の者では…

時野 でももう一回だけ。あの、現場監督は？

鈴鹿 あ、ああ、あそこで寝ちやってるんです。あの人に聞いて下さい。

時野 すいません。お聞きしたいんですけど、以前ここに住んでいた家族が何処に行つたかご存知ですか？

源 ううーん。ぐるぐるど〜ん。

時野 それは地名ですか？ もう少し詳しく。

鈴鹿 そういえば知ってた？

剣守 何が？ 右に3・9…

鈴鹿 この工事現場の家のこと。

神田 あ、知ってる知ってる。

鈴鹿 近所の奥様方に、そりやもう目の敵よ。

剣守 ちよっと、二人とも早く。

鈴鹿 「最近おかしな事件が多いですけど、お宅のお嬢さん大丈夫かしら？」ってこーよ。

神田 「高校生の時から閉じこもっていらっしやるんでしょう？ 嫌だわ、怖いわ。うちの僕ちゃんにも注意するように言っておりますの〜」なんてねえ。

鈴鹿 ちよっと偏見はいってるよね。「何か事件を起こしてからじゃ遅いですわ。近所が一番迷惑しますのよ」とか言って駄目押し。

剣守 でもね。引越す時の事知ってる？

鈴鹿・神田 存じませんわ。

剣守 噂ではね、その娘さんの部屋丸ごと持っていったって話よ。まあ噂ですけど。

神田 あら、どういふこと？

剣守 どうしても部屋から出ようとしなからよ。そこまでやると何かあるんじゃないのって疑ってしまいますでしょ？

鈴鹿 でも、「引越してもらってからは安心して夜道を歩けますわ」とか言ったらしいわよ。

学生三人 怖いわねえ。

時野 それだよ。それから何処に引越していったか知りませんか？

鈴鹿 そこまでは、ちょっと。

神田 まあ、噂だしねえ。

劍守 ねえ…あつ、やだ、ちょっと続き続き。

鈴鹿 もお、あんた達といるとすぐ脱線しちゃうんだから。

神田 でも、鈴鹿が初めに…

鈴鹿 ほーら、行くわよ。右に…：…ねえ、あの人どっかで会った事無い？

神田 そう？ 気のせいじゃない？

鈴鹿 うーん、顔じゃなくて…

劍守 右に、右にね、真っ直ぐ。まーっすぐ。

とは言ったものの、三人なんだか時野が気になる。

時野 何だよ、手掛かりなんて一つも無いじゃないか。どうやって探せって言うんだよ！

思わず地面を蹴ったが、源に当たってしまった。

源 あ、痛！

時野 あ、すみません。ごめんなさい、現場監督。

源 か、監督？

時野の声をしっかり聞いて学生三人奇声をあげる。

劍守 先生、この人、この人。

鈴鹿 先生、声、声。

神田 先生、地面、地面。

源 え？ え？ え？

劍守 まだ寝ぼけてるの？

鈴鹿 神田、気付けの一発。

神田 先生、起きて！

ばっちり入る。

源 おう。

劍守 とにかく声なんです。聞いてます？

源 (クラクラ)

鈴鹿 神田、気付けの一発。

神田 先生、起きて！

ばっちり入る。

源 おう。

劍守 まだ覚めないの？

鈴鹿 神田：

時野 ちよつと待て。君達は鬼か？

劍守 もう一回言って下さい

時野 君達は鬼か？

神田 絶対そうだわ。

鈴鹿 だから言ったでしょ？

時野 何のこと？俺はこの家の行き先が知りたくて。

学生三人 そう、その声。

源 ちよつと、先生にもちゃんと教えてくれる？

神田 先生おめでとう。

劍守 これで根学もマイナーからメジャーになるわ。

鈴鹿 でも、見つけたのは私達だけど。

学生三人 お礼は？

源 え！？あ…あ、ありがとう。

源、訳も分からず頭を下げた。

時野 変わった工事現場の人達だな。

ピピピピと時計のアラームの音。

劍守 誰か携帯。

神田 鈴鹿じゃないの？

鈴鹿 私こんな音じゃない。

源 授業中は携帯の電源は切りなさいって言ってるのに……。あ、そうだ。これ先生です。課外授業だから携帯のアラームかけておいたんだった。はい、今日の授業はここまです。

劍守 えー帰っちゃうの？

神田 もったいないよ。延長しようよ。

源 そうは言っても何時まで延長するか届け出さないと。この学校こまかいから。

時野 あ。のアラーム止めた方がいいですよ。うるさいですし。

鈴鹿 とことんやりましょ、先生。

劍守 私、バイト休むって電話しよ。

時野 あ、アラーム……。

源 バイトまで休んで、これまたいきなり熱心だね。

時野 うるさいですよ、アラーム。

劍守 だって本人と会えたのよ。おもしろいじゃない。

鈴鹿 うん。楽しい事最優先。

神田 おなか減らない？ ちょっと早いけど夕食と夜食の買い出しに行こ。いってきまーす。

時野 アラーム……。

源 そこまで。言うなら先生、がんばっちゃおっかな。

時野 すいません。何でもいいから先にアラーム止めてもらえます？

源 あ、ごめんなさい。

源が止めるのと同時に、部屋の中の忍が目覚まし時計のアラームを止めた。

4

忍 ……5時30分。一時間目って何だったっけ。その前に……

時間を確認して画面の前に座った。

忍 朝日新聞、読売、毎日、産経……全然安全じゃないな……また外に出れないや。何とかならないのかな。

日世子 何とかならないのかな……

日世子もまた部屋で画面の前に座っている。

日世子 きっと見つけ出す方法があるはず……これ、もしかしたら……

忍 一時間目は数学か。

日世子と忍、同じ通信授業を受け続ける。

そことはまた別の場所で、時野の足にしがみつくる源。

源 困るんですよ。帰らないで下さいってば。もうすぐ彼女達戻ってきますから。

時野 だって怪しそうなんでもん。そんな学問聞いた事ないですから。

源 しょうがないよ、マイナーだから。でもこれからは違いますよ、きっと。現にあな  
たの根を探り当てたわけですから。本でも出そうかな。

時野 誰かに聞いたんでしょ？

源 あなたの根から。

時野 あのですねえ……

学生三人 ただいまー。

源 おかえりなさい。

剣守 先生、私達買い物してる問色々想像しちゃって。

神田 これって人探しとか犯人探しとかに使えるんじゃない？ って。

鈴鹿 そうなったら私達、根学探検隊としてがんばります。

源 早まらない、急がない、焦らない。そこまでいくには日々の研究を積まなきゃい  
けません。確個たる証明を突き出してこそ日常生活に普及するってもんですから。そうす  
とですね、ここはひとつまあ何と言いますか、そのー……。

鈴鹿 実験台になって。

源 早いね、鈴鹿君。

剣守 源先生。ペラペラ話すのはいいけどがんばらないとき。

神田 まあ今の状態じゃ完璧に不可だね。

鈴鹿 特訓よ、特訓。せっかく実験台もいるんだから。

時野 あの、勝手に話を……

剣守 はい、しゃがんで。

神田 耳をびったり付けてね。

鈴鹿 ダメ。腰が入ってない。

時野 俺は……

源 この体制でどう腰を入れるわけ？

時野 ちょっと質問。ここでは俺の意志は反映されないのね？

源 すみません。お名前聞いてませんでしたよね。

時野 あ、時野です。

鈴鹿 時野ちゃんさあ、頭使わないと人生こけるよ？

時野 ……。

神田 実験台になってもらって根学が確実だって証明されたらさ、

剣守 この家の人の行き先だって分かるかもね。

鈴鹿 そういうことをくるくる頭回転させなあって。分かる？

時野 じゃ何ですか、分かりましたよ。あなた方の言うように根があったとしましょう

よ、ね？

鈴鹿 シャレよ、シャレだわ。

源 サンプルとしてはまずまず。

時野 誰がサンプルですか！？ だから人の根があって、地面の下にはびこってるって言  
いますけどね、

源 うん。

時野 人の数だけ人の根があったらこの地面の下は人の根で込み合ってる事になるじゃ  
ないですか。じゃあラッシュアワーの時なんて地下でもラッシュアワーって事ですか。

源 いい発想してるね。

時野 ここで俺とあんた方が出会ったら、地下でも俺の根とあんた方の根が出会って  
るって事ですか。

源 あ、なるほどねえ。

時野 そんな事だったらまるで地下にもうひとつ世界があるみたいじゃないですか。

源 世界ねえ……いいねその言葉。パクッていい？

劍守 ちょっと付き合うだけじゃない。損じゃないって。

時野 ソン……？

鈴鹿 はい、座って座って。やるわよー。源先生、邪心があるから聞けないんじゃない？

神田 ユニコーンと一緒にかもね。やっぱり乙女じゃないとね。

鈴鹿・劍守 え？ 私処女じゃないわよ。

源 恥じらいが、恥じらいが欲しい。

鈴鹿 ほら、特訓特訓。

神田 がんばれ源。

劍守 不可だぞー(と、口々に)

学生に特訓を強いられる源。

「根」に必死な四人。

時野は学生達をぼんやりと眺めて。

時野 ソンしてる……か。

その時まったく別の場所で。

どうやら通信授業が終わったようだ。

日世子・忍 「質問時間は30分。次の授業は午後7時から開始します」

日世子 何これ？ はじめまして……何なの？ はじめまして”  
忍 ……。

日世子 僕は特に質問はありません。そちらもなければ終了しましょうか？ ……どうい  
う事だろう。

忍 ……。

日世子 返事をしてもらえませんか？ 終了していいですか？ ……”

忍 今日初めてこの通信授業を受けました”

日世子 ……。

忍 だからシステムがよく分かりません”

日世子 これは一時間目の授業の後に生徒同士でお互いに質問したり教え合ったりする  
時間で、センターが勝手に組み合わせするんです”

忍 そうですか”

日世子 数学は苦手ですか？ 僕はこの授業は理解しました。何か質問はありますか？”

忍 ……いいえ”

日世子 じゃあ違う質問をします“ ……え？ 授業の質問は終了しました。あなたはど  
うしてこの授業を受けたのですか？”

忍 ……。

日世子 僕は統計を取りたいだけなんです。どんな人がこの通信授業を受けているのか。  
ただの気まぐれか、予習復習の為か、夜間学校の代わりか、それとも”

忍 言わなくてはいけませんか？ ……と、いうことは、言いたくない事なのか。”

日世子 ……ということは、言いたくない事なのか？”

忍 私はただ知りたい事があっただけです”

日世子 数学の何が知りたかったんですか？ どうして通信なんですか？”

忍 もういいです。結局分からなかったから”

日世子 何が分からなかったんですか？”

忍 終了して下さい。話したくないんです”

日世子 ……僕と？”

忍 ……誰とも”

日世子 ……

忍 ……それが、

忍・日世子 この通信授業を受けた理由ですか。

忍・日世子 どうもありがとうございます。本当はもっと詳しく聞いてどのパターン  
に当てはまるかで分類分けしたいけど、話してくれそうにありませんね。もし気分を損  
ねてしまったとしたらすみません。ただあなたに限らずこの質問の時間に出会った人、み

んなに聞いている事で、アンケートみたいなものだと思ってももらえれば……（忍の声が重なって、最後は忍の言葉になる）

日世子 授業の後にこんなのがあるなんて。止めとけばよかった……あっ！気のせい？

ふと足元を見た。

コンコンとドアがノックされて、扉の隙間からおぼんにのった夕食が差し出され扉はパタンと静かに閉じた。

日世子 ニンジン、ジャガイモ、牛肉、卵焼き、キャベツ。シーチキン。

花嫁の声 おいしそう。

日世子 どれも食べられない。

花嫁の声 全部食べちゃいたい。

日世子 だからどれも食べられないってば。リンゴ。よかった、果物があつて。

花嫁の声 栄養かたよっちゃうのに。

日世子 地面に落ちたのなら大丈夫。命は奪ってないもの。

花嫁の声 お外に出たいよう。

日世子、はっと自分の足首を掴んだ。

日世子 あ、やっぱり伸びてる。

忍 実際に誰とも話したくないっていう人でも画面を通してならたくさんお話ししてくれた人もいます。

花嫁の声 お話くらいいいじゃない。死ぬわけじゃないんだから。

日世子 あっ、また伸びた。

忍 だって言葉だけじゃ人の体をキズ付ける事は無いし、キズ付けられる事も無い……でしよ？

花嫁の声 そうそう。血が出る事は無いしね。

日世子 何に反応してるの？

忍 返事が無いのは拒否してるって事ですか？

花嫁の声 何年ぶり？誰かと話すのは。

日世子 ……これに反応してるの……？せっかく長い間ドアを閉めていたのに。私にこれに答えてしまったから？

と、日世子、パソコンに触れた。

花嫁の声 おなががすいた。もっとお話したいよう。お外、お外へ行こう。

日世子 もし私が今まで通り誰の声も聞かず、誰の目にも留まらなかつたら。

花嫁の声 動脈と静脈が栄養の通り道。足首からのぼって行こう。

日世子 じゃあ結局一緒じゃない。どっちにしたって逃げられない。だから。

花嫁の声 ダカラ？

日世子 伸びるなら好きなだけ伸びればいい。絶対に見つけ出すから。

花嫁の声 見つけ出してどうするの？

日世子 ……拒否をしているわけではありません。授業の質問に戻っていいですか？

忍 ……別にいいですけど。

日世子 式が分からないんです。私はろくに勉強もしていないので、ちゃんと勉強すれば分かるかなと思ってこの授業を受けました。

忍 何の式ですか？何を求めたいんですか？それが分かれば僕のアンケートにも答えられますか？

日世子 ルート。私のルート。

忍 は？

日世子 それを求める説明も式も何も載ってなかった。

忍 すいません。質問の意味が分からない。

日世子 9の平方根が3とマイナス3だって表わせるのよ。9の数字の中には6.1111とずっと続く宇宙があるじゃない。その宇宙のルートを探れるなら私のルートだって見つけ出せるような気がして。

忍 何の話？数学の授業の話だよね？

日世子 そんな気がしただけ。ルートを探すのは数学しかやってなかったから。でもきつと的外れ。

忍 何だ、冗談か。

日世子 でもね、求められそうなの。

忍 え？

日世子 伸びてるの。反応してるの。あなたと話をしていると。長い間誰とも会わなかつたし、話さなかつた。人の声は人の体温を感じるから。

忍 へえ、それがまた何で今こうやって話してるわけ？

日世子 私の立てこもり作戦は成功したように見えたけど、あの時…誰も話しかける人がいなくなった時から、方向を変えて体の内側に向かって伸び始めたから。

忍 内側に向かって伸びたらどうなるの？

日世子 ……

忍 その「私のルート」って何？

日世子 私も知りたい。だからこうやって話をして伸ばしてるの。どんどん伸びて顔を出したらつかまえてやるんだから。大丈夫、文字じゃ血は出ないでしょ？ 迷惑はかけ

ないけど、ちょっとあなたのこと利用してるかもしれない。

忍　じゃあ、交換条件。僕のアンケートにちゃんと答えてもらうから。でも、難しいな。どうやって統計とろうかな？　今までにないパターンだから。

日世子　何の統計？

忍　画面の前にいる奴等が危険か危険じゃないか。

日世子　キケン。

忍　夕刊ではどの新聞も8割が危険なことで埋まってた。そういう人がいなくなってくれないと、僕は安心して外に出られない。

日世子　…私だけ？

忍　え？

日世子　誰にも聞けなかったけど、あなたにはルートはないの？

忍　僕に？

日世子　足元、足元を見て。

忍　足…？

忍、ふと足元を見た。

地面の下で時野が息をきらせ走っている。

それを地面の上で追っていく源と学生達。

日世子も自分の足元を見たその時。

地面からひらひらと手をふる。

花嫁の声　人の体温…もう駄目。じっとしてられない！　ちょっと行ってきまゝす。

日世子、小さく悲鳴を上げた。

5

時野　何だ、今の？

源　聞こえた？

学生三人　やった！　キャッチ！

時野　人の声？　違うな、もっと低い、いや高いのか？　クマとか幽霊とか、やめてくれよ。

源　また聞こえた？　ね、聞こえたよね？　どうしよう、時野くんやったよ。これはこれ

はですね。

鈴鹿 先生、ここから勝負ですよ

源 凄いぞ、やったやったよ。とうとう聞いちやった。ありがとうね。思えば僕が根学に没頭して…

三人 集中！

時野 何だ、あれ…。

闇の中でうごめく光。

花嫁 やだって言ったらやなの。こんなに早く回ってくるなんて思わなかった。

剣守 ねえ鈴鹿、何か聞こえる？

鈴鹿 ミでも鈴鳴らした。もうしようがない。

花嫁 私、いち抜けた。

鈴鹿 何だか混線してるみたいにいるんなのが聞こえて来るのよ。ねえ、神田は何か聞こえる？

神田 花嫁、わがままはだめでしょ。順番なんですから。

花嫁 チッ。巫女ってカンジわるーい。

源 み、巫女？ 花嫁とか何だ、これ？

鈴鹿 先生、聞こえます？

源 ええつと…今のが始まりの合図だと思ってるのか？

鈴鹿 うん。この前の花嫁行列、冬の終わりにあった。今、もう限界の時期。

源 左の門。

刃 はあーい。

源 やる気なさそうだね。

刃 やる気が出る方がおかしい。

剣守 ええ〜。みんな聞こえるの？

神田 仕方ない事ですから。誰だって気は進みません。でもいつかは順番は回ってくるんだから。

源 列を作ろう。右の門、左の門、巫女、鈴ならし。

花嫁 ……あれ？

剣守 逃げ足早すぎミって聞こえたみたい。

花嫁 護衛、あんたヤな奴ね。私が逃げ出すの分かっててスタンバってたでしょ？

剣守 だって、…護衛だから。

花嫁 分かった。もう逃げないから放してよ。

神田 あんまり信用してはいけませんよ。この花嫁ったら口からでまかせばかり言う

んだから」

花嫁　こら、巫女、あんたねえ。

刃　別にいいんじゃない？　逃げようが、いちぬけしようが。

花嫁　左の、あんたいい事言うわね。じゃ！

刃　そのかわり前の花嫁の事もその前の花嫁の事も、忘れたら許さないから。

花嫁　……ごめんなさい。ちゃんとするから。ちょっと言ってみただけじゃない。

左の、陰険。

源　「月が落ちるまであとのくらい？」

鈴鹿　「山二つ分越えるくらい。」

神田　「行きましようか。東へ。朝日の方へ。」

鈴ならし、大きく合図を送った。

劍守　「待って。誰かいる。」

時野　お、俺の事かな？何だよ、こんな夜中に変なことばかり話してる奴等だな……

劍守　「そこの陰」

時野　うるせーな。あの、ほっとしてもらえますか？

時野以外　「みくたくなく」

時野　え？

鈴鹿　「私、一回言ってみたかった、このセリフ。」

神田　「私も私も。髪の毛伸ばしておくんだったわ。」

鈴鹿　「口に唾える。怖さ倍増。」

劍守　「どう？　怖いだろ？」

時野　全然。

源　「さあ、こんなのはほっておいて行こうか。」

時野　ああいうバカそうな奴等ってどこにいったってっているもんだな。遊んでないで早く帰れよ。あ？　俺の靴

花嫁が片方だけはいている。

時野　ちょっと待てよ。それ俺の靴だぞ。お前が取って行ったのか？

時野、花嫁につかみ掛かろうとするが、

劍守 何かご用でしょうか。

時野 あのこといや、その靴、俺のだから。

花嫁 違いわ。私のよ。

時野 何だよ。さっきここで急にバツて無くなったから、俺「半分半分人間」になつて頭ぐるぐるになつて諦めモードで、何言ってるか分かんないよ。

劍守 危害を加える気が無いのなら手を後ろにそのまま下がって。

時野 え？

劍守 動かずに。動いたらあなた死にますよ。

鈴鹿 護衛、少しびりびりし過ぎる。

時野 死にたくなーい。あれ？ 死にたいんだっけ？でもやだー。あれ？でもさっきは…

神田 かわいそうに。少し心が壊れてるんでしょう。

時野 お前等に言われたくないぞ。

花嫁 お前、これが欲しいの？

時野 というか俺のだから。

花嫁 だつて落ちてたから。気に入ったんだもん。

鈴鹿 花嫁、何でもかんでもすぐ拾う癖ある。

神田 さっさと返しなさい。こんな変なの相手にしちゃいけません。

時野 変なのつて、そっちの方がよっぽどおかしいだろ。いくら地元民だからつて、真夜中だろ？今…え？ 本当だ。おかしいぞ。こんなところで、おたくら、何してんの？え？俺…

一瞬ゾワツとする時野。

この妙な一行、ジツと時野を見つめている。

時野 もしかして、いっちゃったのかな、俺…？（と自分の体を確かめる）本当は一步を踏み出して真つ暗闇の中なのか？ここは…

妙な一行、息を潜めた。

花嫁 ねえ、どうしてみんな今まで気が付か無かつたんだろ？

劍守 何が？

花嫁 花嫁になるのは別に私達の中からはなくてもいいじゃない。

神田 何が言いたいんですか？

花嫁 代わりにあいつに花嫁になってもらうの。

源 無理だね。力で負ける

花嫁 きっと大丈夫。だって、

刃 少し左側の香りがする奴だな。

花嫁 そう。靴の儀式をしていたもの。

鈴鹿 それは理解した。でもどうやって、身代わり、頼むか？

花嫁 任せてよ。ちよっとだけ待ってて。

劍守 じゃあ私も一緒に

花嫁 大丈夫。逃げないって。今まで左の門に入って行った花嫁達の事、ちゃんと覚えてるから。

花嫁、時野の方へ近寄る。

劍守 いいの、任せて？ そんなにうまくいくと思う？

刃 最後のあがきなんだから。誰だって花嫁になったらあがきたくなると思うから。

源 そうだな

神田 少し休みましょう。月が落ちるまでに私達の方の体力が無くなったら花嫁も何もあつたものじゃありませんから

鈴鹿 少し休憩

鈴ならし、大きく鈴を振った。

時野 これが世に言うお迎えってやつか。

花嫁 こっちの道をずっと行くとね、キャンプ場。こっちの道を行くと、バス停。今ちようどど真ん中くらいかな。

時野 え？

花嫁 私ね。西の方から来たの。東へ向かって。

時野 あの。

花嫁 お迎えじゃないよ。私は花嫁さんなの。知らない？ 花嫁行列。

時野 何がなんだか、ついていけないよ。どっちなんだ？ 死んでるんだか生きてるんだか。どうせ俺、どっちもなんだよ。だって「半分半分人間」だから。

花嫁 そんな難しい事はいいの。

時野 そうかきつと俺の妄想か幻想だな。あんなセミナーに行ったらとうとうバカになつたんだ。幻想なら消えちまえ。別に何にも見たかねえよ。

花嫁 幻想じゃないよ。ほら。あんたも私もいるじゃない。

時野 そうじゃないなら何で俺の所に来るの？

花嫁 それ。ものは相談なんだけど、これも何かの縁だと思っさ。いい所で出会えてよかったよ。

時野 はあ…

花嫁 私と花嫁代わってくれない？

時野 無理。俺、男だから。見りや分かるだろ。

花嫁 大丈夫、関係ないから。花嫁は明日を連れてくるだけだから。

時野 明日？

花嫁 だってあんたどうせいらんいでしょ？

時野 いるとかいらんいとか、何でお迎えなのか幻想なのか花嫁なのか分かんないお前に決められなきゃいけないの？

花嫁 だって靴揃えてたじゃない。

時野 それは。

花嫁 何だよ？

時野 それは…ちょっと話だけでも聞いてみない？…だよ。

花嫁 え？

時野のいた町の音。

パソコンの青白い光の前で

画面の文字を目で追う。

声 チョット話ダケデモ聞イテミナイ？

時野 最初はただのイタズラメールかと思ったんだ。

声 アナタ損シテイマセンカ？

時野 思わず指が動いた。まだ気付いていないあなたはこちらへ。

声 <http://www.perfect.co.jp> 実行。

パソコンは唸りを上げてフル回転した。

源 はーい。パーフェクトライフのページへようこそ！あなたは1億5412人目の訪問者です。それではここで経験者の生の声を聞いてみましょう。

鈴鹿 とにかく感謝しているわ。

剣守 今までが嘘みたい。

神田 新しい自分が発見できたの。

源 画面の前の皆さん、とても画期的な人間改革がたった二週間で行われるなんていったらさぞ驚かれる事でしょうね。実はこの先輩達も初めは…。

鈴鹿 そりゃあ、驚いたわ。

劍守 だって信じられる？

神田 インチキだって旦那に叱られたわ。

源 それが嘘じゃないんです。このパーフェクトライフが自信を持ってお勧めする二週間のセミナー合宿。題しましてライフレックス2000！

神田 初めは本当に半信半疑だったの。だってそういうのって何だか怪しいじゃない？

源 そうなんです。以前のセミナーは身体に非常に負担をかけた人間改革が多かったのです。高い金額を払って山にこもり武者修業。そして警察なみの誘導尋問のような内面改革。

劍守 それは確かに負担だわ。

源 そう、それは人間破壊であって、人間改革ではありません。ところがライフレックス2000は違います。

鈴鹿 一体どんな所が違うのかしら？

源 なんとNASAで開発されたこの人間改革ライフレックス2000その威力は皆さんが試してみれば分かります。

鈴鹿 まあ、NASAなら安心だわ。

源 例えば、彼。たった今二週間のセミナー合宿を終えて帰ってきたばかり。

刃 こんにちは

源 お名前は？

刃 宏です。

源 じゃあ、ボブ、今はどんな気分？

刃 生まれ変わったみたい。以前はとにかく人がうらやましかった。でもそんなの言えなくて。

源 ここで使用前、使用后でのボブを見比べてみよう。さあ、みんな叫んでみて。

鈴鹿・劍守・神田 使用前！

源 例えば、学校でのワンシーン。

神田 ねえボブ、テスト前で悪いんだけど古典のノート貸してくれない？

刃 もちろんさ。

劍守 ねえボブ、月末で苦しいの、ちょっとお金貸して。

刃 もちろんさ。

鈴鹿 ねえボブ、コーヒー買ってきて。

刃 もちろんさ。

鈴鹿・劍守・神田 私達、仲良し四人組み。

刃 僕、ボブ、<sup>1</sup>7才。得意技、安請け合ひ。何だかボブ、ちょっと損してる。

源 分かるよ、その気持。誰にでもいい顔しちゃう。Japaneseの悪い癖。その

くせ内側は不安と嫉妬と妬みのオンパレード。人間改革しなきゃね。でもその前に変わりたいと思うなら今の現状全てを捨てる勇気が必要です。

刃 え？

源 周りのその人達、本当にあなたの得になる？あなたの事を本当に思ってくれてますか？

刃 結構深いマジ話だっけるけど。

源 心の底から信用出来ます？

刃 え…？

源 分かんないような関係はすぐに絶ち切ってしましましょう。一人で自分を見詰め直すなければ改革出来ません。

刃 なるほどお。よし、やってみるか。

源 まず自然の中で体をヒーリング。体を休めて回復力を養います。そして、同じ悩みを持つ人達とのディスカッション。最後にライフレックス 2000 の秘密を少々。すると…

神田 ねえボブ。

刃 NO！

剣守 ねえボブ。

刃 NO！

鈴鹿 ねえボブ。

刃 NO！

源 これが使用后。おめでとう、ボブ。今はとっても輝いているよ。さあ皆さん。これでパーフェクトライフがお勧めするライフレックス 2000 の魅力は十分伝わりましたね？はあーい！

鈴鹿 今なら何と秋の大収穫特別プレゼントが付いてくる。

神田 自分に自信の無い方、環境を変えたい方、裸一貫からやり直したい方。

剣守 参加者随時受け付け。ただし今までの人間関係を

花嫁 全て精算してからご参加下さい。

源 不安に思ってるあなた、大丈夫。このセミナー合宿を終了すると、もうあなたは完全人間。これからいくらだって素晴らしい関係を作れます。それどころか、みんなあなたについてくる。

パソコンの画面はそこで静止する。

花嫁 バカじゃないの。

時野 バカバカしいだろ。

花嫁 でも、参加したんだ。楽しかった？

時野 だったら、こんなところにいないよ。何がNASAだよ、何が新しい人間改革だ

よ、ウソばっか。あんなの悪質な自己啓発セミナーだ。完全にはまる前に逃げ出してやっぱりよかったよ。

花嫁 逃げてきたんだ。

時野 特別プレゼントが一部上場の企業とその寮だと？このご時世にそんなおいしい話があるかよ。バカか、金返せ、詐欺集団！

花嫁 ちゃんと分かっているんじゃない。なのに何で参加したの？

時野 そうなんだよ。考えたら簡単な事なのに、今更後悔してもしようがないけど。

花嫁 それで、朝になったらバスに乗ってもとの所に帰る気？

時野 それも考えたけど無理だな。みんなバイバイしてきちゃったしな、会社も全部。だから…

花嫁 靴そろえた。

時野 こんなことならあいつらに止められた時にやめとけばよかったかな…

花嫁 あいつらって？

時野 あんたのまわりにもいるだろ？ ああいうの。

ジッと待っている一行を指差した。

時野 でもすぐに連絡取るのやめちゃって。高校の時の…もう別にいいけど。

花嫁 止める人がいたの？

時野 ああ…

花嫁 そうか…だからか。

時野 何だよ？

花嫁 だから、今自分のまわりにいる人を精算しろってことなのか。だって、止めるじやない、普通は。

時 あ…

花嫁 そんなことも分からないでバイバイしたの？

時野 だって、あの時は…

花嫁 あんた本物の馬鹿だね。かわいそう。

時野 だろ？ 何にも無くなったんだから…

花嫁 あんたのことじゃないよ。

時野 え？

花嫁 その人達…もし探しに来たら帰る？

時野 来るかよ。この場所だって知らないし。知ってたって…俺はもう会う気ない。

花嫁 本当に？

時彦 損してる。

花嫁 え？

時野 思っちゃったんだよな、あいつらに。昔はそんなこと思わなかったのに。あいつらが喜んだら俺も嬉しくて。でも今は何で俺だけうまいかない？ っ。そんなこと思いつながら一緒にいたって疲れるだけだ。

花嫁 別に、昔から思ってたんじゃない？

時彦 は？

花嫁 そういう状況にたまたまならなかっただけじゃない。

時野 そういう状況？

花嫁 私だって花嫁の順番が回って来るまでは、花嫁になる子がかわいそうで、何とかしてあげたいって本気で思ったけど。どうにもならないから。でもね、自分が花嫁になったら、思っちゃうもの、損してるって。何で私なの？ っ。初めはそう思ってた。

時野 俺は別にそんなふうには思ってるわけじゃ……

花嫁 だから今考えると、花嫁になる子の為にかわいそうって思ってた気持ちはウソなのかなんて。私、本当は自分だけ生き延びたいのかなんて。自分がうまいかないと思っちゃうよね。私だけじゃないよね？ でもね、思い出したの。

時野 やめろよ。そんなセミナーの奴等と似たような事言うな。

花嫁 へ？

時野 俺は違うよ。そんな事思ってる無い。

声 ジブンヨリモットサミシイヒトガイル モットヒサンナヒトガイル

時野 そんな事一度も考えた事無い。

声 アナタ ソウオモツテ イキノビテキマシタネ？

時野 人にも下も無いだろ。

声 イイヒトノフリハツカレマスカ？

時野 フリじゃなくて、本当に日世子が……

声 ヒヨコ？ ソレガアナタノエモノダッタシデスカ？

時野 俺は日世子が心配で、いつも声をかけて。

声 イイコトシテルジブンガスキデスカ？

時野 でも日世子は、もしかしたらその方が幸せなんだろうか。

声 ジャアオレノホウガシアワセデハ ナインダロウカ？

時野 じゃあ俺は何であんなにハガキを出したんだろうか。

声 ドウシテナンデスカ？

時野 近況報告で、日記みたいなもんで。

声 ジャアドウシテ コノセミナーノコトヲ カカナカッタシデスカ？

時野 それは、何だか日世子より……

花嫁 ねえ、聞いている？

時野 ええ！？ あ……

花嫁 お願い。どこにも帰る気がなくて誰にも会う気が無いなら、やっぱり花嫁はあ

んたしかいないって。

時野　ちよっと待てよ。何でそうなるんだ。

花嫁　だってあんた、

時野　どうせ俺は死ぬつもりだったから何してもいいと思ってるんだろ？

花嫁　あんた、話の分かる人ね。

時野　ドレスか白無垢かどっちか知らないけど、お前想像してみろ。俺の花嫁衣裳姿。おぞましいだろ？

花嫁　あんた、話分かってない。

時野　違うの？

花嫁　花嫁行列だよ。見た事ないの？青白く燃える火。

時野　え？人魂？

花嫁　違う、行列の灯り。山の中にひとつ、ひとつ一列に灯っていく光。

時野　あれ？それって冬に見えるやつで……何て言ったっけ？

花嫁　本当は冬だけじゃないんだよ。だって私達、いつも持ち続けているんだから。

時野　え？……何を？

花嫁　骨。青白く燃える花嫁の骨。

時野　何、言ってるの？

ぐうと誰かの腹がなった。

花嫁　ずっと昔に、どうやってこの音を押さえたら良いのか、みんなで考えたのね。

ぐうとまた大きく誰かの腹がなった。

花嫁　この音が大きくなればなるほど、明日がどんどん遠ざかっていくからって、一番初めに耳に痣のある子が花嫁になるって言ったの。私は、その時左の門になってその花嫁の骨を…

時野　それ何かの昔話？ 本当に見えたらどうする、その灯り…えーっと、何だったっけ？ 名前が…

花嫁　初めは逃げ出そうとした。でもやっぱり思ったの。出来る事なら他の誰かを花嫁にすればいいって。だって…

時野　名前が、ほら、あれだよ、あれ…

花嫁　私ね、思い出したのよ。

時野　思い出した。

花嫁　行列の最後に、ひとつ、ひとつ燃え上がる骨を見て、いつも思ってたこと。これは何なんだろうって考えていたけどいつの間にか忘れていて。でもやっと思いついたの。

時野　ひとつ、ひとつ、燃え上がる…狐火…？  
花嫁　私、泣いていたのよ。満たされていくのに、泣いていた。花嫁になるのはやっぱり怖い。何で私なのって。でも泣きながらあの子達の骨をかじるよりましかなって。  
時野　お前、狐か？

6

突然、全く違う「根」が動き出した。

刃　骨か…。

ふと鈴鹿が顔を上げた

鈴鹿　何か言った？

劍守　だから右に10・02のあたりで聞こえた。

鈴鹿　そうじゃなくて…。

源　どうです時野君、間違い無いでしょ？相違ないでしょ？先生にも聞こえたでしょ？嬉しいでしょ？

時野　…：はい。まあ確かに…。でも何で分かるんですか？

源　それっは根学のくしんぴい♪

時野　バカにしてるんですか？それじゃ「根学」のくせに根拠が無いじゃないですか。  
源　いえいえ。これから根学の時代ですよ。時野君の根を解明していけば、神秘も現実になるだろうね。

時野　でもそれって俺のプライバシーの侵害になりませんか？俺、あの夜の事は誰にも話さないでおこうって思ってたのに。

源　根学の進歩の為です。

時野　じゃあ慰謝料として、この家の人探して下さいよ。

源　あつ、さつき根拠が無いって文句言ったクセに。

時野　モノは試しにですよ。

鈴鹿　だからそうじゃなくて、よく聞いてよ。

劍守　聞いているわよ。

源　どうしたんだい？僕の教え子達。

神田　違います。先生が私達の教え子なんです。

劍守　鈴鹿が全然違う事言うの。

鈴鹿　何ですよ？ここがさつきキャッチした所。そこから左に10・02あたり。

劍守　右よ。

鈴鹿　左だってば。

劍守 ちよつとちよつと、根学に関しては私の方がつかみは早かったんだから。絶対、右。

源 はい。ケンカだめ。先生が代表して探してみるから

鈴鹿 劍守、早とちり多いんだから。左でしょうが。(と、源は無視)

時野 先生、完全になめられてますね。

源 すっかり忘れてたよ。半年前まで女子高校生だったんだから勝目無いよね。

神田 あ、あのね。

劍守 神田、黙って。

鈴鹿 ずれた事言わないでよ。余計に話がややこしくなる。

神田 ふたまた。

鈴鹿 失礼ね。その件はちゃんと精算したわよ。

神田 え、あの。

劍守 あく、あの時は大変だったわ。もうやめてよ。鈴鹿なら三股もやりかねないんだから。

鈴鹿 あれはさすがに体がもたなかった。

源・時野 いやくん、えっちい。

鈴鹿 呑んで、食って、やって、寝る。私は一番自然体を受け入れてるのよ。

劍守 あんたは根っからのすけべいなだけじゃない。

神田 根がふたつ。

全員 は？

神田 ふたつに分かれてるみたいなの。右と左。どっちに行く？

時野 分かれるなんてことあるんですか？ 僕が来た道はひとつですよ。

源 どうだろうね。研究のしがいがあるよ。両方聞いてみますか。先に……

劍守 右。

鈴鹿 左。

神田 もうジャンケンで決めたら？ はい、ジャンケン。

劍守・鈴鹿 ハッ。

鈴鹿 やった。左に行くわよ。

源 右と左の違いを書き留めていくね。

時野 あの、左に行ったら何て聞こえたの？

鈴鹿 ≪骨か……≫

時野 骨？

鈴鹿 それから……

刃 いい話を聞いちゃったな。そうか骨か。骨なら絶対その場所にあるし使えそう。

時野 え？そんなこと誰が言ったっけ？ 続きは？

鈴鹿 花嫁、もう限界。もう待てない。

時野 そうだよ。先生、やっぱりあってます。

源 えーっと、左は時野君の来た道の通りと…続きはあってますか？

神田 行きましようか。明日がもうすぐやって来ます。

剣守 花嫁、婚儀の儀式の用意をするね。

時野 ええ、あってます。それから花嫁が言ったんですよ。待って、花嫁代理登場 って。

花嫁 待って。

学生三人 待って…って言った。

源 だめだよ時野君、先に答えを言ったら。やる気出してくれるのはうれしいけど。

時野 すいません、つい…。

花嫁 待って。私だっておなかがすいてるのよ。

時野 違うよ。花嫁はそんな事言っただけ無いです。

鈴鹿 だって聞こえたんだもん。

時野 もう一回よく聞いてみて。

花嫁 何が明日？ 何が儀式？ バカみたい。私が本当に花嫁だったら反対にこうしてやる。

源 時野君、あってますか？

時野 いいえ。

学生三人 でも聞こえるの。

花嫁 初めに首。

学生三人 痛い。

花嫁 それから腕。

学生三人 痛い。

花嫁 背中、足。

学生三人 痛い。

花嫁 最後にハラワタ。

時野 全然違う。右、右の根を聞いてみて下さい。左は間違ってますよ。

鈴鹿 でも待って。まだ聞こえる。

刃 豪快だね。今のは殺人だよ。

花嫁 違うわ。正当防衛よ。悪いのはあっちじゃない。5対1よ。

刃 そうか。卑怯だね。ならいいや。悪い奴は僕が成敗しなきゃいけないから。

花嫁 あんた左の門じゃないでしょ？

刃 あんただって。

花嫁 だって全員食べちゃったもん。

時野 え？俺は？俺の根はどこに行ったの？

神田 ちょっとこれ、違う人みたい。

剣守 だから右だって言ったのに。

花嫁 私はね、たまたま通りかかったただけなんだけど横やり入れちゃった。

刃 僕も外へ出る抜け道をやっと見つけ出せたから。フラッと歩いてたらこの集団にあ  
って。

鈴鹿 ねえ神田、これ本当にふたつに分かれてた？

神田・剣守・源・時野 え？

鈴鹿 他の根と交差してるんじゃない？

神田 何、それ？

源 根と根が接触したって事か？

時野 でも、俺はそんな人達とは出会いませんでした。

剣守 じゃあ、どうなってるの？日にちとか時間がおかしくなるじゃない。

花嫁 あんたどっから来たの？

刃 四角い所。あんたは？

花嫁 私も四角い所。うわー、ひさびさ。やっぱり外って素敵。

刃 初めてだ。

花嫁 えっ？

刃 初めて外の世界に来たんだ。足音、車の音、自転車、地下鉄、キャンプ場、山道、  
道路。でもここには空は無いだね。

源 時野君。

時野 はい。

源 君の言ってた事、もしかしたら本当にあるかもしれないね。

時野 はい？

源 世界だよ。地面の下の世界。

刃 行かないや。

花嫁 当てるがあるの？

刃 危険な奴等がいる所。せつかく外に来たんだからやりたい事やらなきゆ。

花嫁 行ってどうするの？

刃 言ったら？ 成敗しなきゃいけないって。

花嫁 ねえねえ、それってやっぱりバツサリ？

刃 もちろん。

花嫁 手伝ってあげようか？

刃 え？

花嫁 外、初めてなんでしょ？案内してあげる。あーでも私もひさびさだから。でもあんたよりはましよ。

刃 あのね。

花嫁 悪い奴がいたら私が噛みついてあげる。私、おなががいっぱいになりやそれ楽しいの。ストレス溜まってんの、私。正直言うと道連れが欲しいのね。長い間ずっと誰とも話して無かったんだから。

刃 あのね、これは遊びじゃ無いんだよ。

花嫁 え？

刃 僕は本気なんだから。本気で危険なものを排除したいって思ってるんだ。これは正義なんだよ。

花嫁 むずかしー。まあ、分かった分かった。

刃 だから悪い奴以外に噛み付いちゃだめだよ。

花嫁 はいはい。

刃 そんな事したらすぐに僕が成敗するから

花嫁 はいはい。

刃 でも…

花嫁 ん？

刃 本当はこつちから誘おうかと思ってた。

花嫁 何で？

刃 あの食いつぷりはたいしたもんだから。戦力になる

花嫁 私の至福の時よ。

刃 誓いを立てようよ。

花嫁 へ？

刃 正義の為に、我は悪しき者を滅ぼさん。ほら、ほら早く。

花嫁 はいよ。正義の為に噛みつきまーす。

刃 まず、そこに散乱している骨、もらっている？

花嫁 どうぞ。もう食べられないから私はいらぬ。何すんの？

刃 何で作ろうかなくて考えてただけだと思いつかなくて。でもさっき骨の話聞いて、使えるなって。

花嫁 何に？

刃 国旗を作るんだ。そのうち分かるよ。あんた名前は？

花嫁 何だっけいいけど、一応誓いの言葉言ったから花嫁でいいか。あんたは？

刃 心を取って

花嫁 は？

刃 ヤイバ。行こうか、まず初めに……。

鈴鹿 走り出したみたい。

神田 右に5・8、左に4・2、まっすぐ11・05

剣守 速いよ、ついていけない。

花嫁 初めに何処行くの？

刃 駅の改札を出てすぐ近くのマンションの301号室にガンマニアがいるんだ。

花嫁 そいつ危険なわけ？

源 右に2・5。

刃 犯罪犯すのも時間の問題。

花嫁 ほう、早めに対処ってことか。

刃 そう、僕はこの国からキケンを全て排除する。

花嫁 私の好きにやっちゃっていい？

刃 いいよ。噛みつけ、花嫁。

花嫁 イエーイ。

源 何だか嫌な音がしたね、また右に6・1。

刃 それから次にローソンの角曲がって右隣の家。

花嫁 そいつは何？

刃 ロリコンの奴はみんな排除しなきゃ。統計取っておいてよかった。花嫁、使い物にならないように引きち切れ。

鈴鹿 まっすぐ8・8。何これ？

花嫁 気分爽快！ねえ、ねえ、これって良い事？良い事？

刃 僕の考えには良いか悪いかしらないの。悪を根絶やしにするのは絶対良い事。

源 下がって16・2・ちよつと時野くんの根から反れたね。キャッチ失敗かな？

時野 じゃあ根学全然駄目じゃないですか！

花嫁 あ、こいつ動いた。ガブ。止めの一発。

刃 花嫁最高。

時野 本当はさっきまでちよつと期待してたのに。

鈴鹿 ああ、日世子さん探し？

時野 何で知って…

源 右に7・0・

劍守 時野ちゃんの根が言ってたよ。

神田 それがあなたのエモノだったんですか？ ってやつ。

源 そのまま右：ちよつと待てよ…根があるということ…。

時野 ちよつと、あなたの生徒が俺のプライバシー侵害してるよ。

源 君達、今の状況が分かっていますか？ 左に6・6・

学生三人 へ？

源 今キャッチしている根は「誰か」の根なんだってこと。右に4・2。

花嫁 次は？

刃 殺人者のくせに公平に裁かれなかった奴等。

花嫁 どうやって調べたの？

刃 情報はいくらだって手に入るから。

花嫁 でも一度は裁かれてるでしょ？

刃 ぬるいんだよ。悪は悪で変わる事なんてないんだから。どうしても国が裁かないなら…

源 よく聞いて、7・5・

刃 僕が裁いてやる。

花嫁 どうやって？

刃 だから国旗。僕の国にしちまえばいいの。

源 実在している誰かの根なんだよ。6・6・

花嫁 じゃあ、私絶対に死刑執行のお役人にして。

刃 優秀だもんね。

鈴鹿 でも、こんな事件聞いた事ないけど。4・2・

花嫁 こいつら皆食っちゃっていい？

劍守 もしかして今ひそかに捜査中かもよ。14・0・

刃 息の根に噛みつけよ。

花嫁 楽しそう。

神田 じゃあ、この根を突き止めたら5・3・

劍守 私達が犯人逮捕しちやったりなんかしたりして

源 それいいね。よしそれで行こう3・8・

鈴鹿 先生：

源 今ここに二人組みの暴走を止める根学部隊を発足します。

鈴鹿 先生、途切れました。

源 え？

みんな脱力。

源・学生三人 はああ、疲れたあ。

その時、

時野の口の前でごぼっと地面が盛り上がった。

時野 あの…ちよっと…

劍守 ちよっと休憩させてよ。私達ほぼ30分間根学やりっぱなしじゃない？

時野 いや、お疲れの所悪いんですけど…

めり、めりっと地面が割れる。

時野　ちよっと、ちよっと見て下さい。あれ！

7

時野が指を差した方向とは全く違う場所。  
画面の前の日世子と忍。

日世子　もう何処まで伸びているのか私にも分からない。捕まえ損ねたわ。

忍　君と話していて良かったことが一つある。

日世子　何？

忍　想像力。

日世子　想像じゃないわ。本当に手をひらひら振っていたのよ。

忍　本当は外に出たい。

日世子　出たくない。

忍　僕の事だよ。怖くてさ。どうして他の人達は武装せずに平気で外を歩けるのか、どうして武装している奴等を野放しにできるのか。言葉で傷つけられることなんて僕にとつてそれほど重要じゃないんだ。肉体が無くなってしまえばその言葉を言うこともできなくなるから。

日世子　だからずっとそこにいるの？

忍　ここにいて役に立たない統計とって、情報をみるくらいしかできない。だから余計に腹が立つんだ。でも、想像だよ。

日世子　え？

忍　考えた事もなかった。きつとずっとこの部屋で過ごすんだろうって思ってたから。でも、何度も何度もシミュレーションしていけば、外で動き回る僕を想像すればいつかは外に出られるかもしれないって思えてきたんだ。君がルートを伸ばしたように。

日世子　私は自分で伸ばしたんじゃないわ。誰かと、あなたと話したから。勝手に伸びて…私の、私…

忍　何で？別に伸ばしたっていいんじゃないの？自分が外へ出た時のシミュレーションでしょ？

日世子　私から伸びてる？私がいるから？

忍　ちよっと待って。質問時間終了一分前だ。話してて面白かった。ありがとう。また偶然に質問時間で会えるといいね。

日世子　もうこの授業受けないわ。

忍　最後に名前教えて欲しいんだけど

日世子　もう会わないからいいんじゃない？

忍　ここではいつも聞いているから。

日世子　…日世子、日の当たらない世界の子って書くの

忍 僕は心の刃って書いて忍。  
1.7才。

日世子はもうキーボードから手を放した。

日世子 1.7  
：私がドアを閉めた時と同じ。「私」は成長しなくてルートのほうが成長した  
だけ？

忍 5秒前のカウントが出た。

日世子 5

忍 また、

日世子 4

忍 どこかで、

日世子 3

忍 会えると、

日世子 2

忍 いいね。

日世子 1

カウントの合図とともに、地面の下から花嫁と刃が登場。

花嫁 花嫁！

刃 刃！

花嫁・刃 ただ今参上！

全員息をのんだ。

刃 誰かが言ってたっけ？ 深淵を覗き込む時は注意しろって。だってほら、向こうもこ  
ちらを覗き込んでるんだから。

花嫁 私の楽しみ邪魔しちゃ嫌よ。

刃 正義の前に立ちはだかる者は皆、悪とみなします。

刃、近くにあった根学に使う棒を拾い上げ、源を切った。  
学生達の悲鳴、口々に源を呼ぶ。

刃 ガラクタも僕の為に真剣に変化する。花嫁、行くぞ。

花嫁 次のエモノはなあに？

刃 統計によると、要注意人物は風通しの悪い部屋で創られるらしい。

花嫁 それ分かる気がするね。

花嫁、刃は軽やかに走りだした。

時野 お前ら、ちょっと待て。

二人の後を追おうとする時野だが、

時野 携帯持ってるだろ？

鈴鹿・剣守 きゃあ、きゃあ…

時野 落ち着けよ。早く携帯、早く救急車と警察に電話。

神田 私するわ。

時野 …大丈夫か？

神田 大丈夫じゃないけど、電話しなきゃ。ちょっと。どこ行くの、逃げる気？

時野 違うよ。追いかけるんだ。

神田 何考えてるのよ？ 先生みたいになるわよ。

時野 日世子がな。

神田 え？

時野 風通しの悪い所に絶対にいるから。

時野は刃と花嫁の後を追いかけた。

刃と花嫁にはなかなか追いつけそうにない。

花嫁 ねえ、私思っただけど。

刃 右斜め前方に容疑者発見。

花嫁・刃 成敗！

刃 で、何の話？

花嫁 出会う人で私の道のりの良し悪しは決まっちゃうのよね。

刃 どういうこと？

花嫁 だから、本当だったら私なんかは真っ先に刃に成敗されるはずなわけ。

救急車のドブプラ―効果に一瞬振り向いた時野、けれど気にせず走り続ける。

時野 電話したのかな…。

刃 食いつぶりがいいのはそのせい？

花嫁 だって誰かの息づかいって甘いんだもん。でもここんとこカスカスなものばかりしか食べてなかったから余計に力が入るの。味わえる時に味わっておかなきゃ。

刃 カスカス？

花嫁 桃とかリンゴとか。果物は根を切らないから。大好きなお肉もお魚もジャガイモも息づかいも駄目なの。目標の赤い屋根の家到着。いっただっきまーす。

花嫁・刃 成敗。

刃 相当な肉好きのくせに菜食主義って変だよ？

花嫁 だってこいつ少し前まで生きてたんだな。って思う食べ物食べちゃったら、一番食べたい息づかいがどうしても食べなくなるんだもん。でも、食わずに生きていくのが普通らしいのよ。

刃 当たり前だろ。

花嫁 だからがんばってみたんだけど。

刃 でも、ジャガイモは野菜だからいいんじゃないの？

花嫁 ジャガイモ食べる時どうするよ？ 根っこ切らなきゃテーブルの上に乗らないでしよ。

救急車のドップラー効果。

時野 また…？ また誰かが…日世子！？ あっちの方から聞こえて来る。

花嫁 でも刃といると正々堂々と噛みつけるから最高。

刃 花嫁は言ってみれば国家の犬だね。

花嫁 嫌な言い方。次は？

刃 連続で抹殺していきます。はい、

救急車のドップラー効果の輪唱が響く。

人ごみを掻き分けて確認する時野。

花嫁 成敗。

刃 成敗。

花嫁 成敗。

時野 またかよ。どっちに行きやいいんだ？ あっちか？ でもこっちか？

再び走り出した。

花嫁 悪い子はいねえか。

刃 悪い子はいねえか。これなんだったっけ？

花嫁 ナマハゲ。

刃 悪い子は、ここにいた。

救急車のドップラー効果の輪唱が響く。

神田 もしもし、だから何度も言ってるじゃないですか！

時野 はあ、はあ、どっちに行きやいか振り回されてる場合じゃないってのに。

刃 成敗。

花嫁 それってちよつと暴れんぼう將軍思い出しちゃうわ。

刃・花嫁 成敗、成敗、成敗！

神田 嘘じゃありません。本当にズバっと…

花嫁 頂きました。ごちそうさんです。

時野 引っ越しなんてするなよ。俺ってタイミング悪い。

花嫁・刃 皆さんコンニチハ。危険、要注意、容疑者撲滅キャンペーン実施中なのでご協力ください。

剣守 もう嫌。帰る。早く、早くなんとかして。

刃 加害者、被害者が発生するまえにクリーンしましよ。

時野 今度はあっちからか？

鈴鹿 血が、血、止まらない。神田早く！

花嫁 げふ。お腹ばんちくりん。

神田 とにかく早く…は？ も一回よく見ろって、何言ってるのよ！ あんた救命隊員のくせに…

刃 撲滅した地域には安全の印を創っておきますので、どうぞ皆さんヨロシク。

鈴鹿 誰か、血が、ほら、血が…え？

刃 それは僕が正義の名のもとに征服した印です。

時野 あれ？ 何で？

剣守 何で？

鈴鹿 血は…どこいったの？

時野 何で誰も救急車に乗り込まないんだ？

源 ガバツと上半身を起こした。

源 びっくりしたな、殺されたかと…

三人 きゃあ〜！

生徒走って逃げる。逃げながら口々に、

「ゾンビ」「でた、でた」「変態」「生き返った〜」。

源 ちょっと、みんな喜んで。先生無事だよ

誰も聞いていない。学生たちは必死で逃げる。

鈴鹿 地獄よ。やっぱり地獄だわ。

剣守 もう嫌、なんでこんなことになるの？

鈴鹿 誰のせいよ。

神田 もう少し離れようよ。そしたら安心じゃない？

鈴鹿 ねえ、待って。どれだけ離れても私達どこに立ってる？

神田 どこって…

学生達、足元を見た。

劍守 高層ビルにでも逃げ込む？

神田 ビルだって地面の上でしょ？

劍守 安心して。日本は島国よ。

鈴鹿 だから何よ。余計に悪いじゃない。渡米でもする気？

遠くでまた救急車のドップラー効果の輪唱が聞こえている。

劍守 もしかして根学ってやっちゃいけないものかもね。

鈴鹿 変なこと言わないで。もう、どうするよ？

神田 根っこってさあ、普通はどうやって処理するんだっけ？

鈴鹿 植物なら普通…

学生たち顔を見合わせて再び走り出した。

8

走り疲れた花嫁と刃。

花嫁 さすがに疲れてきたわ。

刃 切っても切っても終わらないな。後から後から伸びてくるみたいに要注意人物って腐るほどいるから。

花嫁 その統計の取り方の基準は何なの？ 行動に出たら？それとも考えるだけでも要注意？

刃 未然に防ごうと思うなら考えるだけでも駄目。シミュレーションは予告のようなものだから。

花嫁 それって独断と偏見じゃない？

刃 そうだよ。僕の国を創るんだから僕が安心できるようにならないと。少し休む？ ちょうどこの地域は終了したし。印も創らなきや。

花嫁 その印って何？

刃 国旗。どこだって自分の国の国旗を掲げるだろ？

花嫁 どうやって創るのよ？

刃 だからこれ。

ごそつと骨の欠片を取り出した。

花嫁 骨。

刃 骨を裁ち切る事はその言葉も声も奪う事。二度と悪い考えを持たないように。

花嫁 ホネノカケラ。

刃 それで国旗を創るって良い考えだろ？

刃と花嫁座り込んで作業を始めた。

花嫁 ホネ。ねー…

刃 そう、骨。これそっちに置いて

花嫁 ね、根っこ。こ！

刃 ええ？ 国旗。

花嫁 キーボード。

刃 ど。「と」でもいいよね。統計。

花嫁 息づかい。

刃 意地悪。

花嫁 る、ルート…

刃 また「と」？と…

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、久しぶりに笑ったわ。

刃 僕もだ。

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、正直なの。

刃 僕もだ。

花嫁 ねえ。

刃 何？

花嫁 私、誰にも触れられた事がないの。

刃 …僕もだ。

花嫁 ねえ…。

刃 触れていい

花嫁 どうぞ。

刃、花嫁に触れるが、

刃 どう？

花嫁 …分らない。

刃 僕もだ。

花嫁 本当はちつとも満腹じゃないの。

刃 本当はちつとも安全になってないしね。でも今は仕方が無いよ。骨がないんだから。

花嫁 そうか、骨か。私の骨は<sup>1</sup>で止まったまんま。ルートばかり伸びちゃった。

刃 ルートって、あの？

花嫁 私のルートよ。ひとよひとつよによってゴロ合わせするやつじゃないよ。

刃 ひとよ？ 何それ？

花嫁 知らないの？ ルート2のゴロ合わせじゃない。

刃 古いよ。今はいよいよにいさんごむっけなつて憶えるの。花嫁さん、本当はいくつ？

花嫁 むかつく、うるさいなあ。…ねえ。

刃 何？

花嫁 私、戻るわ

刃 え？

這いずりまわる源と戻ってきた時野。

源 根が先か、人が先か…根が先なら。

時野 はあ、はあ…源先生、やつぱり無事でしたか？ どうやら怪我人なんていないみたいで…

源 しっ！

時野 でも良かった。これならきつと日世子も心配ない

源 わかりませんよ。人の根とは奥が深い…

時野 は？

源 時野くん、今から君が一番弟子だ。メモをとれ！

時野 はい？

源 剣守、神田、鈴鹿め。勝手に帰ったら減点なのに。僕はやる気てんこもりなんだぞ。ついて来い。

時野 でも、俺、学生じゃないんだけど…

源 一度三途の川を渡った僕は強いぞ。

時野 ちょっと、聞いてます？

根の声と源の声が重なる。

その度に時野達は日世子の部屋に近づいて行く。

花嫁・源 骨のある所まで、あの四角い所。

刃・源 待てよ。戻った所で何もできないだろ？

時野 何かやっぱり俺って損してるよな。

源 分かってる。だから私を選んでもらうの。

時野 せつかく戻って来たのに…

源 ちゃんとメモれ。手を伸ばして握手するの。

刃 握手？

時野 こんなところで何やってるんだろ？ また中途半端かあ？

花嫁 1<sup>7</sup>で止まった骨の欠片。

時野 日世子に会わなきゃ、ひとつくらいやってのけなきゃ。

花嫁 私が 1<sup>8</sup>になるの。

時野 日世子に会って、会って、あれ？ 会ってそれから俺どうしよう…

源 時野！ よそ見するな！ だあ、お前のせいで聞きのがしたらどうする。邪魔なあいつももう来ない。

刃 あいつって？

花嫁・源 時野…

時野 えっ？

花嫁 私のルートを辿って、ルートの果てまで行くの。

刃 花嫁のルート？

源 時野！？

花嫁 だいたい探し物は足元にあるのが相場じゃない？ 動脈と静脈が通り道。やっぱり初めからこうすれば良かったのよ。

刃 わかってたなら何でそうしなかったの？  
花嫁 それが結構難しいの  
刃 難しいって、ルートの果てには何がある？  
花嫁 びくともしない根っこがある。  
刃 その根っこの名前は？  
花嫁・源 日の当たらない世界の子。

時野 日世子…？

時野と源はその名前をしっかりと確認した。

花嫁 私、行くわ。楽しかった。

刃 うん、楽しかった。

花嫁 さよなら。

刃 さよなら。

花嫁と刃は違う方向へ体を向けた。

源 また右と左か？

刃が振りかえった。

刃 目印は国旗。一目見て分かるように作るから。

花嫁 国旗を目指せばまた会える？

刃 きつと。今夜にでも作るよ。本物の骨で

花嫁 じゃあ、少しだけさよなら。

刃 少しだけさよなら。

今度こそ別々に歩き出す花嫁と刃。

時野 ちょっと待ってください。日世子って言いましたよね？ 右ですか、左ですか？ 追って下さい。

源 でも、もう片方が…

時野 そんなこと俺には関係ないよ。俺に関係があるのは日世子のほう…

日世子を指して軽やかに歩く花嫁。

電車の音、踏み切りの音、花嫁を追う二人。

花嫁　ひとよひとよに根っこまで、ひとよひとよに辿り着く…

見覚えのある風景、それは日世子の部屋の前。

源　途切れた…いや、終点かな？

時野　これ…

源　やっぱりあの噂のお知り合い？

時野　そうだ、ベージュ色の壁。

源　家か？これは…瓦礫みたいだけど。

時野　丸ごと持ってきたのか？

源　僕もその噂聞いた事があるよ。近所のおばちゃんの情報源は捨てたもんじゃないね。

時野　じゃあ、日世子は…

源　よし、これでその日世子ちゃんとやらが根が動いた通りの行動をすれば根学を立証できる、つまりシミュレーションは予告になるということだ。

時野　何言ってるんですか、日世子がああ根の通りになる根拠なんてどこにもないですよ？

源　そう、だから想定と実際を照らし合わせないと。

時野　そんなこと言って実際になっただらどうする…

源　根学の進歩の為です。

時野　…だからか？ そうならない為にドアを閉めたのか？ おーい、日世子！

源　気をつけて、時野くん。根だったから良かったものの、楽しいーとかいいながらバツバツサヤやってくれちゃって。あ、そうだ念のため警察にも電話しておかなきゃ。おお、その前に記者会見か？ 「根学、現代に甦る」なんちゃって。時野くん、どこに行くんですか？

時野　扉を開けます。

源　警察が来るまで待ったほうが賢いですね。

時野　どうせ事が起きなきゃ動きませんよ、警察は。

源　事って、何する気？

時野　日世子に会ってみなきゃ分からない。いっこくらいやってやるよ。

時野、日世子の部屋の扉を壊し始めた。

時野の根　イイヒトノフリハツカレマスカ？

時野　何か言った？

源　いいえ。ちよつとあんまり刺激するようなこと止めなさいよ。

時野　これは俺の根か？ それともセミナーの後遺症か

時野の根　シンパイスルフリ、ヤサシイフリ、オコルフリ

時野　もうどれがフリかわかんね。どれも本当だよ。セミナーに行った俺も、日世子に会いたい俺も。

時野の根　ジブンヨリモットサミシイヒトガイル

時野　俺が一番卑しいって言いたいんだろ？

時野の根　イイナ、イイナウラヤマシイナ　コウコウノコロハコンナコト…

時野　うるせえよ。しょうがないだろ、思っちまうんだから。それでも、あいつらは…

時野の根　ヒヨコノコトヲカンガエルト　ゲンキニナル　ヒヨコヨリオレノホウガマダ

時野　じゃあ、何で俺は今こんなことしてるんだよ？ あの一瞬に顔が浮かんた、それを忘れたくないだけだ。これもフリか？ それでもエモノっていうのか？

日世子は顔を上げた。

日世子　開けないで。

時野　日世子…

日世子　…

時野　何年ぶり？ 今まで何言っただって黙ってたのに。そうだよ、俺やっぱりその声が…

日世子　私ね、笑ってたの。

時野　え？

日世子　「事件が起きました」 って聞かされた時に。町で見かけた交通事故は快感とさえ言っても良かった。事件が停滞するとつまらなかつた。

時野　日世子？

日世子　他の人はみんな違うみたい。だから私がんばって見たんだけどね…

花嫁　少しずつ、少しずつルートを昇っていくと。

日世子　少しずつ、少しずつ内臓が吐き出されていくみたい

花嫁　決めるのは私じゃないわ。私には選ぶ事なんてできないから。選ばれるのを待つだけ。

日世子　だから今までずっと選ばなかつたじゃない。なのに…。

花嫁　もう限界なんでしょ？

日世子　二千日以上之夜だつてここで過ごしてきたんだから。それがたつた…。

花嫁　たった一夜で充分じゃない。本当はずっと考えてたくせに。誰かの声、体温、足

音…

花嫁・日世子　甘い匂い、どろっと流れる赤、トクントクンが聞こえなくなる瞬間。

時野　日世子、何かあった？ だからそんなふうに…

日世子 誰かのせいにしたかったんだけど、でもこれが私…ドアを閉めたくらいじゃ駄目みたい。だから今度は…

時野 今度は？

花嫁 今度こそ選んでもらうの。

日世子 動脈と静脈を通してやってくるのは、私。

花嫁 ひとよひとよに根っこまで、

日世子 怯えるようなものじゃなくて、これが私…

花嫁 ひとよひとよにたどりつく。

日世子 だから切るの。

時野 え？

日世子 私の骨を裁ち切れば、私のルートを裁ち切ればいい。声も言葉も奪って、二度とこんな事を考えないように。

日世子が手に持ったナイフを自分の首に当てたのと同時に、

時野はドアを蹴り破った。

その時間は静かにそしてとてもゆっくりと流れた。

そしてまた同時に全く違う場所で忍は扉を開けた。

忍 大丈夫、シミュレーションは十分だ

刃 そろそろ動き出すつもり？ 幸い僕には邪魔する奴は一人もいないからね。

忍 統計を取ってるだけじゃ駄目なんだ。ちっとも安全にならない。イカレタ奴等ばかりだ。

刃 だったら握手をしようよ。

忍 怖がってばかりじゃ駄目なんだ。僕がやらなきゃ。誰も僕を責めないよ。

刃 7の骨の欠片なんてたいしたことじゃない。問題は次の数字だ。

忍 誰だって安全のほうが良いに決まってる。

刃 1 8を手に入れようなんて思うなよ。ひきかえにだ。いっだって大儀を行うには犠牲が伴う。

忍 この国のすみからすみまで情報を知り尽くしてる僕だからできるんだ。

刃 ルートを裁ち切った瞬間に 8も 9も 1も 2も無くなるんだ。

忍 そうだ、どうして隠れる必要がある？

刃 それくらい覚悟を持つとけ。

忍 これは正義だ。

忍、しっかりと刃と握手をして悠々と地上へのり出した。

日世子が持っていたナイフは日世子の首ではなく地面に突き刺さっている。

時野がそうしたのでろう。

時野 日世子、お前：

時野はナイフから手を放そうとした。

日世子 離さないで。

時野 え？

日世子 地面から抜いたら今度は時野に突き刺さるんだから。

時野 何言ってるんだよ？

日世子 本当よ。試してみる？

時野 一回でも日世子は誰かの息の根に噛みついた事があるの？

日世子 まだよ。だから早くどこかに行つて。もう来ないで。

時野 さっき離すなって言ったのに。

日世子 時野が邪魔するからやややこしくなったじゃない。せつかく：

時野 じゃあ、抜かない。ずっとこうしてる。

日世子 え？

時野 抜いたら本当に俺を刺す？ さっきの続きをするつもりだろ？ だから抜かないし、どこにも行かない。ずっとだ。

日世子 そんなこといって気分いい？ 私の事助けてるつもり？

時野 ……違うよ：

日世子 でも私は変わらない、この根っこは変わらないの。初めて地面を歩いた時から。

時野 日世子、若いよな。年取つてないんじゃない？

日世子 何、世間話してるのよ。

時野 うん、聞いて欲しい話があるんだ。

日世子 話なんか聞いても無理。私が考えてる事はね、誰かの息の根に噛み付く事だけ。

時野 でも、実際何もしてない。日世子がやったことは

ドアを閉めた事と、今のこれだけだ。

日世子 これを抜いたらはつきりするわよ。

時野 その前に聞いてほしいんだ。日世子に会ってそれからどうするかなんて考えてなかったんだ。でも、今思った。どうしても話しておきたいことがあるんだ。それからでも別にいいだろ？

日世子 ……スキをみせたら知らないから。

時野 気をつけるよ。俺は選んだんだ。選んで今ここにいるんだよ。キャンプ場から抜け出した山の中で、俺が出会った花嫁はぐうぐう鳴るお腹を押さえて言ったんだ。私、泣いていたのよ。

9

時野は花嫁を思い出した。  
それは少し悲しげな顔のあの花嫁。

花嫁 私、泣いていたのよ。満たされていくのに、泣いていた。花嫁になるのはやっぱり怖い。何で私なのって。でも泣きながらあの子達の骨をかじるよりましかなって。

時野 そんなわけなのに、不意に口から零れたんだ「お前、狐か？」って。それから……

花嫁行列の一行たちがポロポロ現れた。

鈴ならし 花嫁もう限界。もう待てない。

巫女 行きましようか、明日がもうすぐやってきます。

護衛 花嫁、婚儀の儀式の合図をするね。

花嫁 待って。花嫁代理登場。

残りの大達 本当に？

巫女 では早速清めましょう。

右の門 護衛。

護衛 用意出来たよ。

時野 体を掴まれた瞬間になんだかびびって、声を絞り出した。

右の門 初めから代理を立てれば良かったね。そしたら今までだって。

時野 裏返った声でさ、ちよつと誰か？ 変な奴等がいるんです。誰か！

一行 ダレカッテ？

時野 ……もしかしたらセミナーの人とか探してるかもって……

一行 サガス？

時野 わけないよ。もう金払ったんだから。五十万現金で……でももしかしたらあいつ

らが、

一行 アイツラ？

時野 都合の良い事考えた。そんなセミナー行くなよって言ったあいつらのこと振り切ってきたのに。

花嫁 気になるの？ もうあんたは会う気ないんでしょう？

時野 帰ってくる時はお前等より上になつてゐるぞつて思つてやつてきたのに…俺は何でそんなこと思つたんだろう？

花嫁 何で今頃そんなこと言うの？ もう遅いよ。

鈴ならし これが婚儀の合図。

一行は時野を花嫁に儀式を始める。

左の門 全てが終わったらこつちへおいで。

右の門 朝日が見えたらこつちへおいで。

鈴ならし ふたつの門が開く合図。

時野 これは幻想だ、そう言い聞かした。

巫女 女最後のお祈りをしましょう。花嫁のために。

聞こえつづける祈りの声。

最後のお祈りをしましょ。花嫁のために…

時野 最後の望みに賭けたんだ。おい、元花嫁！ お前等やっぱり狐だろ？ 俺を化かして楽しんでるだけだろ？

花嫁 残念。はずれ。

鈴ならし これが最後の合図。

時野 最後って言われて体のどこかが感じたんだ、ああもう駄目だなんて。

護衛 花嫁、口を閉じて。

時野 後は言われるがまま口を閉じた。いろんな事がよぎつてよぎつて通り過ぎて、最後に浮かんだんだ。

犬達 さようなら。ありがとう。

時野 お前に会いたいな。

日世子 …時野…

花嫁 あ……

時野が目を閉じた時、花嫁の耳に何か聞こえた。  
一行は牙をむいた。

護衛 初めに首。

右の門 それから腕。

巫女　私は背中。

鈴ならし　私は腕。

左の門　最後に腸。

けれど、噛みち切られたのは花嫁。

一行は食い続ける。

時野　何て事するんだ、お前等：お前等化け物だろ！

一行　何でよう、何でよう？

巫女　代理を立てるって言ったのに。

護衛　任せてって言ったのに。

鈴ならし　でも、見て。

犬達　もうすぐ明日が来る。

時野　何言ってるんだよ。死んじまったんじゃないのか？早く病院に…

左の門　全てが終わったら、こっちへおいで。

左の門、花嫁の体から骨を取り出して犬達に渡す。

左の門　ありがとう。花嫁を忘れない為にひとつひとつ灯していこう。

護衛　始まりの合図。

骨を口に咥え、一行歩き出す。

時野　ちょっと、待てよ。ほったらかしにして何処に行くんだ？

右の門　また始まった。私が守る次の花嫁は？

巫女　私よ。右の門、いつ頃になる？

鈴ならし　ぎりぎり限界まで待つに決まってるでしょう。

右の門　左の門が足りないけど？

鈴ならし　また、どこかで誰かに出逢うと思う。

左の門　行列の最後にいつも思うこれは、何なんだろう？ 満たされていくのに、これは

何なんだろう…

一行　何なんだろうね。何なんだろう、何ナンダロウ、ナンナンダロウ…

啞えた骨ひとつ、またひとつ、炎が灯っていく。

時野 警察に言わなきや、ちよつと、あんた大丈夫か？

花嫁 うきゅ…

時野 救急車呼ぶから、バス停まで俺走るから。俺のこと助けてくれたんだよな？

花嫁 ……………

時野 え？ こんな時に何わけの分からない事言ってるんだよ？ おい！…おい、あんた！ 花嫁…はな…

時野、もう一度花嫁を見つめた。

時野 狐？ 違う、こいつは…

小さく、犬の遠吠えが聞こえた。

一番初めに聞いた、人の声より高いのか、低いのか分からない、あの声。

時野 あの光…あれが狐火？ お前の骨が燃えてるんだろ、犬火って名前変えたほうがいいんじゃないか？ これは幻想？ やっぱり化かされただけか？ こいつだって、あの光も…あの光？ あれは…

狐火だった灯りが、ひとつ、またひとつ、人工の光に変わっていく。

時野 だからお前あんなこと言ったのか？

花嫁 「あんたのためじゃないよ」

時野、光の方をしっかりと見た。

時野 あれは、俺を探す懐中電灯の光…

懐中電灯の光が眩しい朝の光に変わっていく。  
そのほんの短い間。

朝とも夜とも言えないどちらでもない空の下。

忍は外界のざらつとした空気を感ずる、

けれど晴れ晴れとした顔をして。

忍　もう少し何時間か後にはみんな気づくだろう。それで好き勝手言うんだ。第一発見者が言いますには：

違う場所で。

それぞれ地面に農薬をまく学生達が気づいた。

神田　そっちはどう？

鈴鹿　やってるわよ。まいて、もっともっとまくの。根が死んじゃうくらいまかないとね。

神田　でもコンビニで売ってた植物用のでも本当に効くの？

鈴鹿　根っこにはかわりないんだから大丈夫よ。

神田　学校に行つて農学部の子にでも相談する？

劍守　ねえ…

神田・鈴鹿　何？

劍守　変なもん見つけちゃった。

鈴鹿　何？根っこ？

劍守　わかんない。何か書いてあるみたい？文字？

忍　誰かが言った。それはルートを示す文字

違う場所で源が気づいた。

源　へっぶしっつ、ふあく、寝ちゃったよ、おい時野くん、あれ？時野？どこ行っちゃったのさ？おいてけぼりするなんて意地悪だね…何だありや？誰か夜中にパズル遊びでもしてたのか？

忍　誰かが言った。それはルートを表わすパズル。

神田　あ！私も変なもん見つけた。

劍守　私と同じかな？

神田　でも、地図みたいに見えるけど？

忍　誰かが言った。それはルートを探す地図。

鈴鹿　ねえ、私が見てるのは扉みたいなんだけど…

忍　誰かが言った。それはルートへ続く扉

源　いや、違うぞ。これは…

学生三人　違う、待って。これは…

忍　誰かが言った。それはルートを断ち切った印。僕が正義の名のもとに征服した印。

あのどちらとも言えない空の色を破って。

朝が町に色をつけた。

そうして町は動き出す。

工事現場、そこに働く人々。

日世子　時野の体温が私の手から離れていった。

時野、ゆっくり手を放していく。

日世子　もう少し何時間か後には私はどうしているかしら？

日世子、床からゆっくりとナイフを抜き始めた。

日世子　時野はどうしているかしら？

日世子、時野をしっかりと見た。

地面にはうずくまる花嫁。

それは日世子の根なのか、

山の中で出会った花嫁なのか、ただの野犬なのか。

日世子　うずくまっていたものに目を留めてしまったの。行き交う人々は、道端で息たえた野良犬から目をそむけて…でも私は見つめつづけるの。これが私。これは私…？

工事現場の人々は仕事の手を止めた。

何かを見つけたのだ。

工事現場の声 何だ、これ？ イタズラか？

工事現場の声 どうします？

工事現場の声 こんなのあったら仕事にならねえよ。誰だ？ こんな作ったのは。引き上げる。

工事現場の声 はい。

工事現場の声 さっさと片付けて仕事仕事。

工事現場の声 こっちOKです。

工事現場の声 こっちも。

工事現場の声 よーし、いくぞ。オーライ、オーライ、オーライ…もっと上げて、もっともつと…

「それ」は人々によって国旗のように掲げられた。  
日世子は手にナイフを持ったまま、時野とまだ見つめ合い続ける。  
二人ともピクリとも動かず、花嫁は丸く丸くうづくまっていたまま。  
やっと、時野が言葉を口にした。

工事現場の声 なあ、おい。あれって何かに見えないか？

「それ」は人々によって国旗のように掲げられた。  
日世子は手にナイフを持ったまま、時野とまだ見つめ合い続ける。  
二人ともピクリとも動かず、花嫁は丸く丸くうづくまっていたまま。  
やっと、時野が言葉を口にした。

時野 …日世子。

日世子 何？

時野 …触れていい？

日世子はまだ時野を見つめ続ける。

そしてナイフを握り締めていた右手をゆっくり、ゆっくり下げていった。  
それを見届けたようにうづくまっていた花嫁、高く高く遠吠えを上げた。  
それからまた小さく小さくうづくまって花嫁は眠った、  
ように見える。

今は…

おわり